

## 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28. 7/27~8/17)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)を測定しました。※下段( )内は検出限界値。

測定地点			7/27~8/3	8/3~8/10	8/10~8/17
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.074 (0.015)	0.058 (0.015)	0.033 (0.015)
		Cs137	0.360 (0.014)	0.330 (0.014)	0.190 (0.018)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	0.062 (0.015)	不検出 (0.016)	0.013 (0.012)
		Cs137	0.310 (0.014)	0.110 (0.018)	0.071 (0.011)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	0.017 (0.013)	0.012 (0.012)	不検出 (0.020)
		Cs137	0.120 (0.012)	0.059 (0.012)	0.036 (0.012)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.017)	不検出 (0.019)	不検出 (0.015)
		Cs137	0.053 (0.017)	0.078 (0.019)	0.039 (0.016)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.022)	不検出 (0.016)	不検出 (0.020)
		Cs137	0.029 (0.019)	0.026 (0.015)	不検出 (0.016)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

測定地点			7/27~8/3	8/3~8/10	8/10~8/17
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	0.065 (0.014)	0.049 (0.014)	0.033 (0.014)
		Cs137	0.340 (0.015)	0.270 (0.015)	0.150 (0.013)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	0.020 (0.018)	不検出 (0.015)	不検出 (0.015)
		Cs137	0.120 (0.019)	0.057 (0.014)	0.050 (0.016)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	0.062 (0.017)	0.017 (0.013)	不検出 (0.014)
		Cs137	0.410 (0.014)	0.071 (0.011)	0.041 (0.014)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.016)	不検出 (0.018)	不検出 (0.012)
		Cs137	0.100 (0.013)	0.120 (0.015)	0.048 (0.011)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	0.044 (0.017)	0.018 (0.017)	不検出 (0.012)
		Cs137	0.250 (0.019)	0.130 (0.017)	0.071 (0.011)

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

### ★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

今回は、日々多少の変動はあるものの、セシウム137で0.130±0.015mBq/m<sup>3</sup>と低い濃度で推移しました。最も値が大きかったのは、7月27日~8月3日の間に高平生涯学習センターで観測された0.410mBq/m<sup>3</sup>ですが、健康影響を考慮する濃度には遠く及びません。

台風による出水で汚染表土が移動することによって、放射エネルギーが減ったり、今まで観測されなかった場所で観測されることがある※かもしれませんが、残存放射能を考えると健康に影響を及ぼすことは予想されません。引き続き、注意深く観測を続けていきます。

#### ※ウエザリング効果：

出水や強風など自然天候要因によって放射能汚染土壌が流されたり、飛ばされたりして環境放射エネルギーが減少することがあります。この効果をウエザリング効果(天候効果)といい、福島原発事故後も、各所で放射性物質の半減期の2倍近い速度で放射エネルギーが減っていることが観測されています。しかし、平面地では放射エネルギーの減少がみられる反面、雨水樹やダム湖湖底など泥が溜まる場所では、放射エネルギーが増加することがありますので、限度を超える場合には、除染する必要が出てきます。